（４）教育を受ける際の配慮や工夫

① バリアフリーに関すること

ア　教育現場で現に行われている配慮や工夫

- スロープを設置している。車いす使用者対応エレベーター・音声誘導エレベーターを設置している。（私立一貫校、私立小学校、短大、大学）
- 点字ブロックを設置している。（短大、大学）
- 車いす使用者対応トイレ、多機能（多目的）トイレを設置している。（私立一貫校、私立小学校、短大、大学、公立学校）
- 教室内に車いす使用者スペースを設置している。（短大、大学）
- 正面玄関に近いところに障がい者用駐車スペースを確保している。（短大、大学）
- 各建物や通路に対してのバリアフリー点検表を作成し、点検表をもとに改修が必要な箇所について、順次計画を立て、解消するよう努めている。（大学）
- 学内バリアフリーマップを作成している。（大学）
- 主要教室名を点字表示している。（短大、大学）

イ　障がい者が「あってよかった」と思った配慮や工夫

- 学校にスロープやエレベーターがあり便利だった。（肢体不自由、盲ろう）
- 車いすでも使いやすい机を用意してもらえて、勉強しやすかった。（肢体不自由）
- 多機能トイレ（暖かくなる便座）を取り付けてもらったおかげで、冬、寒くて便座が冷たいので、がまんしていたトイレへ行きやすくなった。（知的障がい）
- 視覚障がい者の安全に配慮されていることにありがたく思う。（視覚障がい）
- ある施設では音声でエレベーターの場所等案内してくれるので助かった。（視覚障がい）

ウ　障がい者が「困ったこと」「あったらいいな」と思う配慮や工夫

- エレベーターがないと移動が困難なため設置を進めて欲しい。（肢体不自由）
- 段差を解消するなどバリアフリー化を図って欲しい。（肢体不自由、視覚障がい）
- オストメイトのトイレを設置して欲しい。（視覚障がい）
- 会場等のバリアフリーに関する情報を事前に提供して欲しい。（肢体不自由、音声・言語・そしゃく機能障がい）

② 授業に関すること

ア　教育現場で現に行われている配慮や工夫

- 教材の拡大版を用意している。（短大、大学）
- 拡大読書器を用意している。（大学）

- 音訳を行っている。（大学）
- ノートテーク、パソコンノートテークによる支援を行っている。（短大、大学）
- ポイントテークによる支援を行っている。（短大、大学）
- 希望に応じて手話通訳をつけている。（大学）
- 聴覚障がいのある学生に対し、授業では常に板書を行うとともに、教員が出来るだけ大きく口を開いて話し、その動きでできるだけ理解できるよう工夫している。（短大）
- 授業で使用するビデオの文字おこしを行っている。（大学）
- ＩＣレコーダー等録音器、補聴援助システム、ノイズを制限するもの等支援機器の提案・設置・貸与を行っている。（大学）
- 体育の授業では、自らの心身状態と折り合いをつけながら可能な活動を選択できるよう特別クラスを編成している。（大学）
- 遠隔講義システムの活用を行っている。（大学）
- 板書の文字を出来るだけ大きく書いている。（公立学校）
- 色覚特性の子どもが見やすいように、板書するチョークの色を配慮している。（公立学校）
- プリントやテキストの文字サイズ等を拡大している、ルビを打っている。（公立学校）
- 球技、遊びなどにおいて、別途ルールを設定している。（公立学校）
- 子どもが口元を読み取れるように説明の際は必ず子どもの方を向くようにしている。（公立学校）
- 個々の子どもにとってベストの座席位置になるよう配慮している。（公立学校）
- 板書のキーワードは、見やすいようにカードを作成して説明している。（公立学校）
- 支援学級と通常の学級での学習内容を関連付けている（公立小中学校）
- 学習の流れ、プロセス、予定を視覚化して明示している。（公立学校）
- さまざまな認知特性に応じた教材や学習活動の工夫をしている。（公立学校）
- 適宜ジェスチャーを交えて、簡潔にゆっくり話すようにしている。（公立学校）
- プレゼンテーション用ソフト等を活用した板書の映像化をしている。（公立学校）
- 授業に集中しやすいように教室前面の掲示をなくすようにしている。（公立学校）

イ　障がい者が「あってよかった」と思った配慮や工夫

- 席を前にしてもらえたことで少しでも見えることができた。（視覚障がい）
- 席を前にしてもらえたことで講師の口の動きを読み取ることができた。（聴覚障がい）
- 教材の拡大版が用意されていて助かった。拡大読書器が用意されていて助かった。点字や音声のテキストがあることで助かった。（視覚障がい）
- 介助者が点字を覚えたり通訳をしてくれて助かった。（盲ろう）

- 友人がノートテーク、パソコンノートテークによる支援を行ってくれて助かった。（聴覚障がい）
- 講座を受けるとき要約筆記や手話通訳をつけてもらい助かった。（聴覚障がい）
- ADHD（注意欠陥・多動性障がい）の傾向があるため学習サポートの方にタイピング確認や書面整理の補助をしてもらえるのはありがたい。（精神障がい）
- 体育を受ける時、集団行動が苦手だったので少人数で対応してくれたのが良かった。体育の授業は出来るものはやって、出来ないものはレポート提出という形にしてくれて助かった。（肢体不自由、知的障がい）
- 体温調節ができないがエアコンがある教室で授業をしてもらえたので助かった。（肢体不自由）
- 中学において、数学や理科はクラスから外れたが、その他の科目は普通学級で勉強でき有難たかった。（知的障がい）
- 午前中の１コマ目の授業から出席できなくても、２コマ目からの出席でも認めてもらえたので、生活リズムに多少の揺れがあった日でも続けて出席でき、卒業できた。（精神障がい）

ウ　障がい者が「困ったこと」「あったらいいな」と思う配慮や工夫

- 教科書によって拡大文字のないときがある。副読本にも拡大文字が必要。（視覚障がい）
- 学校で使うテキストを点字にするという保障をして欲しい。（視覚障がい）
- 板書するとき声を出しながら書いて欲しい。（視覚障がい）
- 筆談では単純過ぎて理解出来ないので手話通訳が必要。手話通訳の利用範囲を広げて欲しい。派遣手話通訳者が必要。（聴覚障がい、盲ろう）
- 小学校や中学校の義務教育課程で、言語としての手話の教育課程を取り入れて欲しい。（聴覚障がい）
- 情報がうまく伝わらない時がよくあるので、触手話する時は音声会話をゆっくりと話して欲しい。（盲ろう）
- ノートテーク、板書の徹底等、普通校で学ぶ時のサポート体制が必要である。（聴覚障がい）
- 聴覚に課題がある子は前に座らせ、勉強が分ったかどうか確認する等の配慮が必要。（聴覚障がい）
- 体育等の教科によって障がい特性に応じた配慮が欲しい。（審判の声がきこえないと試合参加が難しい等）（聴覚障がい）

③ 試験に関すること

ア　教育現場で現に行われている配慮や工夫

- 大学入試センター試験受験特別措置に準じた措置を実施している。（大学）
- 入学試験時に特別な配慮を必要とする場合、出願前に申し出るよう募集要項に記載し、個別相談に応じている。（大学）
- 拡大文字の問題、拡大解答用紙の用意をしている。（短大、大学、公立学校）

- 点字化した問題用紙を用意している。（公立学校）
- 試験時間の延長を認めている。（短大、大学、公立学校）
- 精神障がいのある学生から、定期試験実施時、多人数の教室での試験はパニックになる可能性があるとの相談を受け、別室での受験を実施した。（大学）
- 身体障がい者対応トイレに近い試験室での受験をさせている。（短大、大学）
- 聴覚障がいのある受験生に対し、試験時の口頭の注意事項について、書面により注意を促している。（大学）
- 聴覚・平衡機能障がいのある受験生について、入試の際、前列席とし、試験監督が話す内容を筆談で伝えた。（大学）
- 明るい席を指定する。照明器具を用意する。持参する私用の拡大鏡、補聴器、松葉杖等に対応する。（大学）
- 個別の障がいの特性に応じて評価するようにしている。（公立学校）

イ　障がい者が「あってよかった」と思った配慮や工夫

- 受験の際、障がい者用の会場が設けてあり、車での来場、広い机での受験ができ、とても助かった。（肢体不自由）
- 拡大文字の問題を用意してくれていたので試験が受けやすかった。（盲ろう）
- 点字による入学試験・学内試験が可能だった。（視覚障がい）

④ 相談や学生生活の支援に関すること

ア　教育現場で現に行われている配慮や工夫

- 学生及び保護者からの支援要請に基づき、一人ひとりのニーズに応じた支援計画を作成し、支援を行っている。（大学）
- 学生相談室を設置し、専門カウンセラーを置いている。心理カウンセラーや心療内科医を配置している。保健管理センターと連携している。（私立一貫校、大学）
- 緊急時対応のための連絡カードを用意している。（短大）
- オープンキャンパス、入学式、卒業式、就職イベント等学内イベントに対する参加への支援を行っている。（大学）
- 聴覚障がいのある学生に対し、本人の意向を聞きながら、入学式や講演会で手話通訳を用意した。（短大）
- 発達障がいのある学生に対しては、配慮事項について個別相談し、授業担当及び指導教員との連絡・連携などを行っている。（大学）
- 学内の車両乗り入れを認めている。（短大、大学）
- 介助員、学習支援員を配置している。（公立学校）
- 給食で、嚥下力の弱い子どものために二次調理（ミキサー食）をしている。（公立学校）

イ　障がい者が「あってよかった」と思った配慮や工夫

- 大学内に障がい者の対応をしてくれる職員が配置されていて必要な支援をし

てくれる。（視覚障がい）

- サポートサークルがあることで、勉強会にも参加でき、仲間も増えた。（視覚障がい）
- 授業参観や三者懇談会に手話通訳がいて安心できた。（聴覚障がい）
- 図書館や資料室で、探している本や論文を探すのを手伝ってもらったことがある。（肢体不自由）
- 個別支援計画の時に一緒に入って計画をたて、学期ごとに評価させるので、子どもの成長に親も励みになっている。（知的障がい）

ウ　障がい者が「困ったこと」「あったらいいな」と思う配慮や工夫

- 参観日の際、先生に筆談ででも状況を教えて欲しい。（盲ろう、聴覚障がい）
- こども相談センターや教育委員会の就学相談のアドバイスなど、情報の発信をして欲しい。（視覚障がい、肢体不自由）

⑤ 就職支援に関すること

ア　教育現場で現に行われている配慮や工夫

- 求人票に障がい者採用有無の記入欄を設け、障がい者向けの求人票ファイルを設置し、情報を提供している。（大学）
- 学外の障がい者向けイベント情報の提供や、障がい者対象の就職支援団体の紹介をしている。（大学）
- 障がい者向けの求人、企業説明会、インターンシップ等の就職関連情報を収集・提供している。（大学）
- 就職支援は、全て個別対応を実施している。障がいの程度に応じたアドバイス等を行っており、メンタル面についても、十分気をつけながらフォローしている。（大学）

イ　障がい者が「あってよかった」と思った配慮や工夫

- 支援学校に行っている頃、２年の時から就職に向けて現場実習に何ヶ所か行かせてもらって、大変良かった。（知的障がい）

⑥ 障がい理解に関すること

ア　教育現場で現に行われている配慮や工夫

- 手話教室の実施や、耳の不自由な方と交流の場を持つなど、障がいへの理解を深めるための体験学習を行っている。（私立一貫校）
- 障がいのある学生への理解を深めるため、毎年、4 月の学生ガイダンスの際、障がいのある方を招いて、学生や教員に対し研修会を実施している。（短大）
- 学生へ障がいの理解を深めるためのピアサポーター研修を実施している。（大学）
- 発達障がいを含め、配慮を必要とする学生の理解を深めるための研修を、年一回、カウンセラーを講師として実施している。（大学）

- 支援協力学生の協力を得て障がいのある学生の支援を行っている。手話講習会，パソコン講習会，ノートテーク講習会などを開催し支援協力学生等の養成を行っている。（大学）
- 学生が主体となったノートテーカー、パソコンテーカーの養成講座を行っている。（大学）
- 授業の一環として、視覚障がい体験、聴覚障がいの擬似体験や車いすで介助者・被介助者の役割を交代しながら、バリアフリーを点検するなどの障がい者の理解を深める教育を行っている。（大学）
- 学生自らが企画実践する「学生チャレンジプロジェクト」の公募を行い、その中から「障がい学生支援プロジェクト」（本学に通う障がいのある学生を支援し，充実した学生生活が進められるよう「活動」(交流イベント「しゃべり場」）と「環境」（バリアフリーマップ冊子）の２領域の企画立案・実行)を採択した。（大学）
- 全ての保護者の理解を深めるための説明に努めている。（公立学校）

イ　障がい者が「あってよかった」と思った配慮や工夫

- 小学校で視覚障がい者理解の授業があるとのことで、近所の男の子に声をかけてもらえた。（視覚障がい）
- 小学生を対象にした手話のレクチャーを受けた子ども達と手話を通じてコミュニケーションが取れてとても嬉しかった。（聴覚障がい）
- 障がい理解を深めるために、障がい者の体験などを授業に取り組んでくれている。（知的障がい）

ウ　障がい者が「困ったこと」「あったらいいな」と思う配慮や工夫

- 障がい者に対して思いやりを持つ教育をして欲しい。（視覚障がい）
- 学生に対しての「個別の人権教育」が必要。（精神障がい）
- 手話は「日本語対応手話」より、ろうあ者に会った「日本手話」を使って欲しい。（聴覚障がい）
- 小学校や中学校の義務教育課程で、障がい者の情報保障の教育をして欲しい。例えば、情報保障には手話や要約筆記などがあること。（聴覚障がい）
- 笑顔とその子にあった言葉を選んで使って欲しい。その子のいい所や本人なりの進歩をほめて欲しい。（知的障がい）
- 障がいのある子どもの兄弟姉妹も親と同じように負担を担っているので、宿題や持参するものを用意できない事もある事を知って欲しい。（知的障がい）

⑦ その他

ア　教育現場で現に行われている配慮や工夫

- 図書館の窓口で，視覚障がい者のための拡大鏡や、聴覚障がい者と職員とのコミュニケーションのための電子メモパッド等を備えている。（大学）
- 論文執筆等を支援するため、文献収集補助、データベースの代行検索、利用

希望資料を取りに行くなどの支援を行っている。（大学）

- 居場所の確保を行っている。（大学）
- 肢体不自由の学生の介助を行っている。（大学）
- 自動扉ではない一部の出入り口では、チャイムカードを学生に持ってもらって、職員が扉の開閉を行っている。（大学）
- 車いすを使う子どもがいたら、クラスのみんなが試乗して配慮すべき点を見つけるようにしている。（公立学校）
- 下足箱、傘立て、整列棚などを、学年やクラスごとにカラーリングしている。（公立学校）
- 聴覚障がいのある子どものために防犯、防災ベルを点灯化している。（公立学校）
- 学校や通学路の危険個所を関係者とともに確認し、安全確保を図っている。（公立学校）
- 遠足のコースをビデオで記録し、配慮すべき点を事前に検討するようにしている。（公立学校）
- お互いを尊重しあう関係性を築くために、障がいのある子どもと障がいのない子どもとの集団づくりを図るようにしている。（公立学校）
- 運動会や卒業式等各行事での子どもの位置付けを全員で確認し、ルールや参加のための配慮について検討するようにしている。（公立学校）
- 気持ちを落ち着けるコーナー、エリアを整備し、態勢を整えている。（公立学校）

イ　障がい者が「あってよかった」と思った配慮や工夫

- 保育園や小学校の加配制度により、一日数時間横について本人の特性も理解してもらえるので、困った時のサポートも受けられた。（知的障がい）
- 各種特別支援学校は担任数が多くて良い。（精神障がい）

ウ　障がい者が「困ったこと」「あったらいいな」と思う配慮や工夫

- 図書施設での音声図書の案内をして欲しい。（視覚障がい）
- 図書館などでも、図書が高いところにある場合が多いので、気軽に手伝ってもらえるとありがたい。（肢体不自由）
- ある程度一つの窓口で色々な学校の情報が得られる様にして欲しい。（肢体不自由、聴覚障がい）
- 特別支援学校の高卒認定卒業後、希望に応じて継続して学習等のできる環境が必要。（精神障がい）